

研究テーマ：スピーキングの力を向上させるための指導の工夫

所属 須崎市立浦ノ内中学校

氏名 別役 和未

R G J H 2

1 研究の背景

浦ノ内中学校では、英語の重点目標の 1 つとして、「英語でコミュニケーションを行う活動や、自己表現する活動を多く取り入れ、生徒同志が関わりを持つ中で、実際の言葉としての英語を体得できるようにする。」と掲げている。

3 年生の生徒達は、活発で、発表もよくできる生徒が多い。全体の仲も良く、注意し合うことができる。英語の定期テストの平均点は、だいたい 70 点前後である。

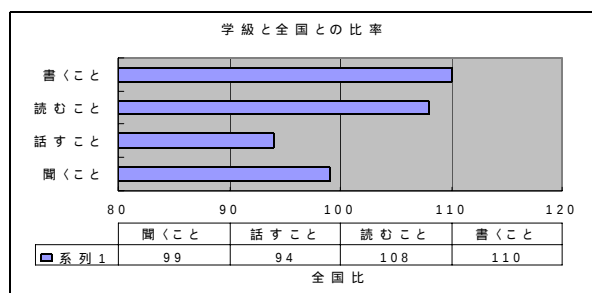
英語の授業の中で、1 年生の時から、特にデクテーションに力を入れて授業を進めてきた。そのせいか、書く能力に優れていると考えている。その反面、簡単な英語で話しかけても、すぐに答えが返ってこない。自分の考えや気持ちを伝える表現力が乏しいということがわかる。

2 リサーチクエスチョン

「自分自身のことについて、先生や友達と英問英答ができ、自分の考えや気持ちを正しく伝えることができるようになる。」

3 予備調査

英語力を示すデータ CRT



アンケートの一部

身近なことを英語の文で表現するのはどう思いますか。

- 1 自分のことや身近なことを表現できるので楽しい。32%
- 2 難しいので好きではない。56%
- 3 まったくやる気がしない。12%

CRT の結果からもわかるように、全国平均よりも下回っている項目の中で、特に、話す技能の低さが目立った。生徒は、知識としての英語力はあるが、実際の言葉としての英語は体得していないように考えられる。

4 仮説の設定

(1) 仮説

仮説 1

授業の冒頭で、音読をいろんな方法で、継続しておこなえば、英語の音に慣れるようになるだろう。

仮説 2

音読の中に、日本訳（英文を前から訳した）から英語に訳す練習を多く取り入れれば、日本語と英語の違いが理解でき、もっと自然に英語の文がでてくるようになるだろう。

仮説 3

自分自身についての場面をいくつか設定して、マッピングを利用したペアワークを継続しておこなえば、自分の考えや気持ちを正しく伝えることができるようになる。

5 計画の実践

仮説 1 について

授業の導入時に、音読を取り入れ、大きな声で積極的に読むことに取り組む活動を工夫した。それが、話すことへの意欲につながると思うからである。自己評価カードを使用し、意欲につなげていった。やり方も工夫し、リピートだけでなくシャドウイング オーバーラッピング レシテーションも取り入れた。検証方法は、自己評価カード、授業中の観察、音読テストなどで判断した。

仮説 2 について

音読したページを日本語から英語に訳す作業を取り入れた。それによって、英語でしゃべったり、抵抗なく英文を書けたりできるようになると考える。検証方法は、授業中の観察などで判断した。

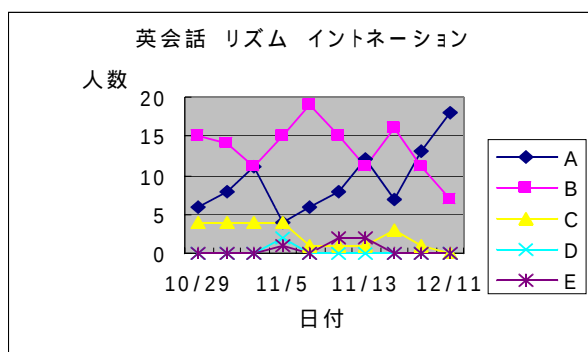
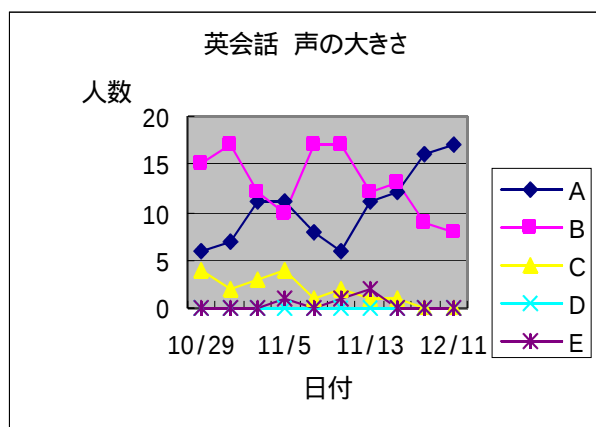
仮説 3 について

趣味・家族・日常生活について、場面を設定して、ペアワークをおこない、その後に、発表させるようにした。ペアワークをする前にマッピングを行い、1分間会話を継続さすようにした。

検証方法は、自己評価カード 授業中の観察 面接テストなどで判断した。

6 実践の結果

英会話のデータ



7 結果の検証

最初は、評価 A の生徒が少なかったが、最終的には A の生徒が多くなってきた。最初は、声も小さく自信がなさそうだったが、最終的には、堂々とみんなの前で、1分以上英会話ができた。音読の継続が最終的には、スピーキングの力につながることがわかったし、さらにマッピングをすることによって、会話が1分以上続くことがわかった。

8 成果と今後の課題

声の大きさ リズム イントネーション は日に日に上達してきた。すぐに、英会話をするのではなく、間にマッピングを入れることによって、英会話の流ちょうさも増してきた。以下に生徒の感想文からも自信のほどがうかがえるように思われる。

前よりも大きな声で英会話ができるようになってきた。前に比べたら、声の大きさ リズム イントネーションがうまくなった。何回もがんばってやったので、上手になった。

今まで苦手だったけど、読めるようになってきた。3年になって、もっと英語がおもしろくなってきた。

マッピングは良い方法であった。

今後の課題としては、文の作り方がまだ完全に理解できていない生徒が数人いる。つねに、基礎基本に返って、繰り返し、繰り返し声に出して練習し、英語での会話がスムーズにいき、自信を持って話せるよう支援していきたい。

